

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	杉原 翔太 橋村 康二	実務経験と その関連資格	杉原:回復期病院で8年間勤務。認知症ケア専門士を取得。脳血管疾患のみならず呼吸、循環器にも携わる。 橋村:6年間の臨床業務で回復期、生活期の経験を有する。また、15年の教育歴および修士課程修了の実績を有する。			
《授業科目における学習内容》						
人体の構造と機能を有機的に繋ぎ、系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、そして器官の機能、人体における役割を系統的に学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度、提出課題内容、出席状況で総合評価を行い点数化する。 100点満点中60点以上で単位を認める。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック						
《授業外における学習方法》						
解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書等の忘れ物に注意し、課題の提出期限も厳守すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	解剖生理学を何のために学ぶのかを理解し説明できる 人体の構造を立体的にイメージし説明できる		解剖生理学 解剖生理学ワークブック 骨模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
	各コマにおける授業予定	解剖生理学のための基礎知識				
第2回	授業を通じての到達目標	上肢の骨を分類分けし、部位の名称を説明できる 上肢の骨格筋が理解できる		解剖生理学 解剖生理学ワークブック 骨模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
	各コマにおける授業予定	上肢の骨・骨格筋				
第3回	授業を通じての到達目標	下肢の骨を分類分けし、部位の名称を説明できる 下肢の骨格筋が理解できる		解剖生理学 解剖生理学ワークブック 骨模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
	各コマにおける授業予定	下肢の骨・骨格筋				
第4回	授業を通じての到達目標	頭頸部・体幹の骨を分類分けし、部位の名称を説明できる 頭頸部・体幹の骨格筋が理解できる		解剖生理学 解剖生理学ワークブック 骨模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
	各コマにおける授業予定	頭頸部・体幹の骨・骨格筋				
第5回	授業を通じての到達目標	骨の内部や組織構造が説明できる 骨髄の役割やリモデリングが説明できる		解剖生理学 解剖生理学ワークブック 骨模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
	各コマにおける授業予定	骨の概要(形態・構造・組織)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節の基本構造を理解し説明できる 立体的に関節の動き(軸)をイメージし分類分けできる	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 骨模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	骨の連結(関節の基本構造・補助装置・種類)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨格筋の構造を理解し説明できる 筋原線維の配列を説明できる	解剖生理学 解剖生理学ワークブック	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	筋肉の概要(組織、骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の構造や組織を説明できる 細胞小器官の各部位の作用を説明できる	解剖生理学 解剖生理学ワークブック	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	人体の細胞・組織		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔・咽頭・食道・胃の構造と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	口の構造と機能、咽頭と食道の構造と機能、胃の構造と機能		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	小腸・大腸の構造と機能、栄養素の消化と吸収について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	小腸・大腸の構造と機能、栄養素の消化と吸収		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脾・肝・胆・腹膜の構造と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	脾・肝・胆・腹膜の構造と機能		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の構造と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	呼吸器の構造、呼吸		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液の組成と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板、血液型(落合部長)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の構造と心臓の拍出機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	心臓の構造、心臓の興奮とその伝播		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	血管の構造・肺循環・体循環が説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	末梢血管系の構造、リンパとリンパ管(落合部長)		